



埼愛キムチ新聞

第34号

2025年11月16日

販売会毎発行

(努力目標!)

kimuchi@saiai.net

■〇〇から見る朝鮮学校 その8

◆《ウリカペブックトーク》『朝鮮学校児童・生徒たちの作文集』を読む』での感想①

★十月四日、東京・新大久保にある文化センターアリランでウリカペ主催のブックトーク『朝鮮学校児童・生徒たちの作文集』を読む』が行われました(詳細は『埼愛キムチ新聞・第三号参照』『有志の会』HP掲載)。その場で読まれたスタップの感想を紹介します。

『コッソニ』一七頁・「言い続けよう(コ・デギ)」

“まだおれらを知らないやつには
おれがいちいち説明してやるべきだ
歴史をろくに学べなかったのが
なぜそいつらのせいだと言えよう”

「人々」から投げかけられる一体何者だ?という問いは、おそらくデギさん本人が個人的に抱えたことのあるものだと思います。アイデンティティについての問いに向き合うことは、自問自答であっても、ときに苦しさを伴うでしょう。しかしながら、それを他者から不躰に浴びせられるのは訳が違います。

デギさんは「歴史を学べなかったのはそいつらのせいではない」と書いていますが、これは日本人の欺瞞であり、彼に説明をさせることなど、本来あってはならないのです。もしその問いが発生するのであれば、それは互いに信頼関係のある同志の、相互理解のための会話のなかであるべきです。さらにその問いかけをする者は、日本を含むアジアの近代史について史実を学ぶべきです。日本の歴史教育の反省点を、こうした形で彼に背負わせるのは本当に間違っています。

“税金徴収時には「日本人」補助金停止は「朝鮮人」”

日本人ファーストなる排外主義が大手を振って蔓延っています。全国知事会から、国は外国人を『労働者』と見ているが、地方自治体から見れば日本人と同じ『生活者』であり『地域住民』である」という声明がありました。国にとって都合の良い制度には強制的に組み込み、恩恵は受けさせない、というのは単なる搾取であり明確な差別です。

これを書いたのは中学2年生の男の子です。私が塾で教えていた中2の男の子を思う時、部活やゲームに夢中な、体はデカいが無邪気でまだ幼い子供たちの姿が浮かびます。同じ年の男の子に、このような言葉を書かせる社会とは。中学生は幼くてよい、とは思いませんが、この年齢の男子が、このように社会に対して目が開いている背景について考えるべきです。デギさん個人の持ち合わせた資質以上に、日本社会が、考えざるを得ない状況に追い込んでいるものだからです。

朝鮮学校の問題にとどまらず、最近の日本社会の状況とあわせて、わたしたち日本人がどうかしなければならぬ課題が詰まっていると感じました。最後に「やさしく手から差し伸べる日まで」とありますが、彼の言葉通り「やさしく手を差し伸べてあげる」ことを正解やゴールと捉えるには、あまりにも欺瞞が過ぎるでしょう。私たちは日本人として、彼の側に共に立つべきです。

甘えるな、学べ、考えろ、日本人たち。そして私も。

(アイコ)



『コッソニ』のご購入は、

⇒ Amazon(在庫切れや”高騰あり”)

⇒ 池袋のジュンク堂や新宿紀ノ国屋には常に在庫が置かれている(もしくは取り寄せ可能)

⇒ soriyomoyora@gmail.com
m/編集事務局に連絡がすれば、1870円で発送

★埼愛キムチについて★

2010年度末、埼玉県は、「財務の健全化」を口実に埼玉朝鮮学園への補助金の支給を打ち切りました。また、埼玉県議会は2012年に「拉致問題が解決するまで補助金の支給を行わない」という附帯決議を行いました。これは朝鮮学校に通う子どもたちとは何ら関係のない外交政治上の理由を持ち出すことによる不当な差別に他なりません。2018年度に県が財務状況について、「健全性が確認できた」と学校に通達した後も、支給停止は続いています。このような非常に厳しい状況の中、埼愛キムチは少しでも学校運営に寄与するため、「利益全額カンパ」の活動を行っています。美味しいキムチとともに、朝鮮学校支援の輪が広がりますよう、ご協力よろしくお願いします。